

異文化との出会い

法文学部法経学科
L124093 渡部 玲奈

今回私は、初めての海外で、中国へ行き、日本とは違う異文化に触れることにワクワクしていた。北京空港へ降り立って、中国語が飛び交っているのを耳にしたとき日本ではない所へ来たのだと実感した。次の日、人民大学で農業についての学生討論会が行われ、人民大学の学生と通訳を介しながらお互いの農業についての発表をきき、意見を言い合いながらこれからの日中の農業貿易についてのことや、自国の農業のこれからについて話し合ったとき、日本は中国から輸入しないと農産物を含め食品分野が機能しなくなること、また、中国も買い手が見つからないと儲けが出ず、経済に影響があることとお互いの関係が信頼関係にないと農業経済を含めた経済全体に影響が出て互いの国民の生活に影響が出ることがわかった。日中友好関係は、今回の討論会に出てきたが、若者がこれからの友好関係をつくっていくという話であった。現状、日本と中国の関係は良いとは言えない関係にある。しかし、これは一方から見た見解であり、今回中国で過ごした中で、少しも反日の人を見かけなかった。他方からみれば、全然違う見方で捉えることができることが分かった。このように中国は反日の人だけではないという見方が浸透して日中の友好関係が修復されるよう若者の私たちが良い関係を築けるように努力し、この今の現状を断ち切れれば良いと願っている。



また、中国の歴史を感じさせる建造物をみたことは非常に思い出深かった。万里の長城では、山の尾根沿いに果てしないかのように続いていて、人工物でこのような長距離に渡って作られていたことに感嘆し、故宮博物館では、豪華絢爛たる城がそびえたち、映画の世界でしか味わえないような雰囲気を実際に目でみてその場の空気感を肌で感じ、日本にはない長い歴史の中で積み重ねてきたものに触れることができ感動で心が満たされた。



中国の文化は、先述したような歴史建造物でも触れることができたが、食の文化、トイレの文化などでも触れ、日本と似たような文化もあれば、全く異なることもあり、全て目にするものが新鮮であった。中国の文化にこの研修で少しではあるが触れることができ、異文化を理解することが出来たのと同時に日本の良さもみえてきた。日本に住んでいる間、自分が狭い範囲でしか日本をみていなかったということが分かり、グローバル化が進み世界の人との交流機会も増える現在、異文化を理解することも大事であるが、日本人としての誇りを持ちながら、日本の良さも伝えていければいいと思う。



異文化に触れるということは、自分の経験の幅も広がり、視野も広がる。私は、この研修でこのような思いを感じた。互いに理解するためには、自分の文化もきちんと知っておかなければ話が進まないことや世界共通語としてある英語を話せなければ、自分の感情や聞きたい事をいう事ができないというもどかしさも感じた。これから、この交流プログラムで中国へ行って学んだことをきっかけにして、もっと中国のことを知りたいという思いが膨らんできたのと同時に他国の文化にも触れあって、自分の目で確かめて肌で感じてみたいという思いが生まれた。それと同時に、この研修で中国に友達ができたと同時に、世界の人達と話すことによって、自分の異文化交流の経験を積んでいきたいと私は考える。

